



令和6年度 東京都立田柄高等学校 学校経営報告

【A 達成 B 概ね達成 C 達成まであと一步】

中期的目標と方策		
Ⅰ 学 習 指 導	社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成 ① 1 全教科で、多角的な視野に立つ様々なものの見方考え方を習得させ、言語能力の向上、論理的思考力や国際社会に貢献できる資質・能力の育成を図る。 2 学校 2020 レガシーに基づき、ボランティアマインド、豊かな国際感覚、日本の伝統・文化への理解など、多文化共生社会の中核人材としての資質・能力の育成を図る。	
	成果と課題	関連する数値目標
	探究的・協働的な活動による学び合いの推進 ① 生徒による授業評価では授業満足度肯定的回答 89%。授業実践校内研修 44 回、相互授業参観は平均 5 回実施 ② 図書館を活用した活動として校内ビブリオバトル 1 回 ③ 外国籍等多様な生徒に届く少人数・習熟度別指導せいかあり ④ 放課後の日本語指導は授業との連携が課題 ⑤ 教科の補習・放課後講習・長期休業期間中の講習、オンデマンド講習は講座数が課題。英検 2 次試験指導実施成果あり ⑥ スキルアップ推進校事業グローバルスキル講座、JET、英語科教員による支援実施。生徒参加率 85% 学校 2020 レガシーへの取組 ① 学校設定教科「グローバルスタディーズ」、インターナショナルスクール交流、留学生交流、中国からの視察団受入れ ② 学校設定科目「日本の伝統・文化」の成果発表実施 ③ 地域の一員として、幼稚園での実習、高齢者施設でのボランティア、地域と連携した防災活動を実施、成果あり	教員相互授業参観 年 3 回以上／人 A 7 回 授業実践校内研修 年 10 回以上 A 44 回 国際交流 年 2 回以上 A 4 回 長期休業日中の講習 20 講座以上 100 人以上 A 17 講習 210 人 オンデマンド講座の開催 30 講座以上 C 18 講座 各種検定受検指導 年 9 回 A 30 回 英検・漢検（準 2 級以上）及び 日本語能力試験（N3）等検定合格 年 30 人以上 A 英検 1 級－1 人、準 1 級－5 人、2 級－4 人、準 2 級－1 人、N1－4 人、N2－12 人、N3－3 人 IELTS7.5－1 人、5.5－1 人、800 点以上 4 名 生徒授業満足度 80%以上 A 89%
	主な推進所管・担当 各教科、各学年、進路指導部、教務部、日本語指導コーディネーター	

中期的目標と方策		
Ⅱ 生 活 指 導	社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成 ② 1 規律ある生活習慣と自ら考え行動できる力を身に付け、自立した社会の一員として国際社会を生きるために必要な資質・能力を養う。 2 多様な生徒が在籍する本校における人権教育を推進し、多文化共生社会東京の中核人材を育成する。	
	成果と課題	関連する数値目標
	規範意識の醸成と主体性の育成 ① SC と連携した支援的な指導（アンガーマネジメント）、いじめ防止委員会による組織的な生徒支援成果あり ② 生活指導一環として遅刻指導を実施、学年との連携が課題 ③ 生徒会や部活動が活性化し各種行事で主体性発揮 ④ 薬物乱用防止教室、セーフティ教室及び自転車通学指導（ヘルメット着用指導等）ヘルメット着用指導の改善が必要 ⑤ 練馬区防災課、光が丘消防署、光が丘公園、光が丘警察署と連携した防災訓練を実施 成果あり ⑥ 生徒・教員校則アンケート、生徒会との連携強化が課題 人権教育の推進 ① SNS ルールや SOS の出し方（相談窓口）の周知徹底、SC・YSW・専門医と連携 教育相談に関する肯定的回答 76%。前年度（83%）より減 校内相談窓口に繋げることが課題 ② 人権講話人権教育プログラムを活用した校内研修、体罰防止研修実施。「体罰や暴言のない指導を行っている」に対する否定的回答 24% 会計年度任用職員を含め全教員に対して研修実施 ③ 制服の自由選択制の他、多様性に配慮した対応（性別を問わない呼び方「～さん」）を推進 全教員には至っていない	遅刻者数の HR 平均 3 人以下／日 C 4.4 人 部活動の加入率 50%以上 B 47.2 問題行動抑止 特別指導件数 年 20 件以下 C 38 件 校内美化キャンペーン実施 年 3 回 C 生活指導方針 ホームページ等で公表 地域と連携した防災活動 年 1 回以上 A 4 回 体罰事故防止研修の実施 年 3 回以上 A 3 回
	主な推進所管・担当 各学年、各教科、生徒部、総務部、防災教育推進委員会	

Ⅲ 進 路 指 導	中期的目標と方策	
	社会的・職業的自立意識の醸成 1 3年間を見通したキャリア教育実践、放課後講習や長期休業日中の講習等を通して生徒の学習意欲を向上させることで能力を引き出し、より高い進路目標の設定と実現、卒業時の進路決定率の向上を図る。 2 多文化共生社会の中核人材となりうる日本及び日本以外の国や地域に繋がりをもつ生徒の進路実現を支援する。	
	成果と課題	関連する数値目標
	外部機関と連携したキャリア教育 ① キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲによるキャリア教育実践 ② 多言語による情報提供、ハローワークと連携した相談体制等 ③ スキルアップ推進校事業と JET を活用した英検指導、模擬試験や資格検定試験の活用良好、JLPT 受検支援は課題あり ④ 学年、分掌・委員会、特別支援教育心理士、SC 及びYSW（2名）の活用（定例会議の他 27 回） ⑤ 1、2年生全員対象の職業体験を実施 動機づけに課題あり ⑥ 入国管理局による在留資格研修、留学生によるロールモデル ⑦ 三者面談実施 クラス間差が課題（20%から 100%）	三者面談の全員実施 B 90% 自習室活用 200 名以上 A 201 名 大学合格者 30 名以上 A 32 名 進路決定率 90%以上 C 78% 職場体験・企業見学等参加者 80%以上 A 95%
		主な推進所管・担当
		各学年、各教科、進路指導部、自立支援担当

Ⅳ 特 別 活 動 ・ 部 活 動 ・ 健 康 づ く り	中期的目標と方策	
	学校行事の充実と部活動の振興 1 体育祭や文化祭、修学旅行、英語暗唱大会、日本の伝統・文化発表会、百人一首大会等の多様な学校行事をととして、平素の学習活動の成果を活かすとともに、自主的・主体的な実践力や協働する力等を高め、規律ある学校生活を充実させる。 2 生徒の自主的・自発的な参加によりスポーツや文化等に親しむ活動として、地域行事への貢献等、地域との連携を図りながら、部活動の振興を図る。 3 儀式的行事の適正な実施 学校生活に有意義な変化や折り目を付け、新しい生活に向けた希望・意欲を新たにもちながら厳粛な中で規律ある態度で臨むなど、儀式の意義を踏まえた指導を適切に行い、儀式的行事を適正に実施する。	
	体力向上・健康づくりの取組 1 体育の授業や体育的行事、部活動をととして、運動意欲や体力、基礎的な運動能力、競技力の向上を図るとともに、安全管理や食育により、生涯にわたる健康づくりの推進を図る。 2 学校保健活動及び教育相談活動を充実させ、生徒一人一人に届く心身の健康づくりを推進する。	
	成果と課題	関連する数値目標
	学校行事の充実と部活動の振興 ① 多様な生徒の活躍の場の創出、成果あり ② 部活動・生徒会の学校案内・相談会、地域活動への参加 ③ 部活動顧問会議において熱中症対策の徹底 ④ 幼稚園実習、高齢者施設や地域活動でのボランティア参加 健康づくり ① 産業医面接実施（毎月） ② 日本語を母語としない生徒対応（多言語スライド・資料） ③ 熱中症予防、感染症対策、アレルギー対応校内研修実施 ④ 産婦人科医等による保健講話を実施 ⑤ 「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」実施	英語暗唱大会 年 1 回 A 1 回 日本の伝統・文化発表会 年 1 回 A 1 回 百人一首大会 年 1 回 A 1 回 2020 学校レガシー講演会 年 1 回 A 1 回 ロードレース大会の実施 年 1 回 A 1 回 部活動顧問会議 年 5 回 B 4 回 学校保健委員会 年 1 回 A 2 回 安全衛生委員会 年 12 回 A 12 回 コンディションレポート活用・感染症対策通年 C
		主な推進所管・担当
		各学年、各教科、生徒部、総務部、各部活動顧問

Ⅴ 募 集 ・ 広 報 活 動	中期的目標と方策	
	魅力ある学校づくりと魅力の発信 1 「『入れる学校』から『入りたい学校』へ」を合言葉に、学校環境・教育内容の改善・充実を図り、積極的な募集・広報活動を展開する。 2 ユニバーサルデザイン（ユーザビリティ・アクセシビリティ）の観点から、多様な志願者のニーズに応えるよう募集・広報活動を創意工夫する。	
	成果と課題	関連する数値目標
	『入りたい学校』を目指した魅力発信 ① 平易な日本語やルビ対応、中国語、ネパール語での情報発信 ② ホームページ及び学校だより送付 HP 更新回数が課題 「今日の田柄」などの発信が必要 ③ 学校案内多言語版の QR コードを学校説明会で配布	ホームページ更新 年 150 回以上 C 118 回 学校見学会・説明会実施 年 10 回以上 A 12 回 学校だよりの発行 年 10 回 延べ 910 校送付 A 学校説明会来場者 年 800 人以上 B 767 人 中学校・塾訪問 年 100 校以上 C 82 校

	④ 中学校訪問への組織的な取組が課題、在京外国人生徒向けの相談会（説明会）成果あり ⑤ 出身中学校別在籍者を把握し中学校訪問時に情報共有 ⑥ 都立高校魅力発信事業（PR 動画やフォトギャラリーなど）、TV 取材動画を学校説明会で活用	主な推進所管・担当
		総務部、コンピューター委員会

Ⅵ 教育課題	中期的目標と方策	
	ダイバーシティとインクルージョン（多様性への寛容さ）の推進 1 多文化共生社会の中核人材の育成を目指し、多様な生徒への組織的な支援体制を構築する。 2 校内特別支援教育推進体制を充実させ、自立支援チーム、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、専門医、特別支援教育心理士等の活用により、個々の生徒理解、対応を図り、中途退学・不登校を防止するなど、すべての生徒が安心して通える学校環境を構築する。	
	成果と課題	関連する数値目標
	日本語を母語としない生徒への支援 ① 日本語指導推進校事業の中核として日本語指導担当者会議と外部コーディネーター及び母語話者が連携し生徒を支援 ② オンラインアセスメントテスト等を活用し5グループに分けた放課後日本語指導 学習への動機づけが課題 ③ 1 学期アセスメントテスト結果をもとにした生徒への働きかけ実施 年度末テストは所管課の都合により未実施 ④ 複数副担任制（1クラス2人）によるHR 支援 成果あり ⑤ 学力向上研究校「校内寺子屋」の取組の推進 個別の支援の推進 ① 自立支援チーム（YSW）、教育相談チーム（SC）が連携した不登校・中途退学者への支援 転退学者予備軍への支援が課題 ② SC、YSW、専門医・特別支援教育心理士と連携した生徒の観察・面談・相談体制 成果あり	日本語指導に関する授業研究等 年 3 回以上 A 6 回 オンラインアセスメントテストによる日本語能力の把握 年 2 回以上 A（OL1 回、学校作成 PB1 回） 学力向上研究校「校内寺子屋」 3 教科（国・数・英）A 自立支援チームによる相談年 150 回以上 A 162 回 生徒の進路変更（転・退学） 年 30 人以下 43 人（退学 23/437 中退率 5.2%） C
		主な推進所管・担当
		各教科、教務部、生徒部、自立支援担当、特別支援教育コーディネーター、日本語指導コーディネーター

Ⅶ 学校経営・組織体制	中期的目標と方策	
	学校経営における組織力の向上 1 学校の組織的経営と効率化、事務業務の機能の充実と効率化及び学校経営計画に基づく予算編成・執行を行う。 2 学校運営連絡協議会の充実と地域連携の強化により、課題解決に向けた適正な学校経営の改善と意思決定を行う。 3 教職員の働き方改革を行い、ライフ・ワーク・バランスに基づいた勤務を推進する。	
	成果と課題	関連する数値目標
	組織力の向上 ① 企画調整会議、委員会等参加者がリーダーシップを発揮 ② 副校長・経営企画室予算担当が連携し予算ヒアリング実施 ③ 警察署、消防署他、関係諸機関等、地域と連携した教育活動 サービス事故防止 ① 保有個人情報等の安全管理に関する研修実施 ② 相談窓口の周知、職員への校内研修及び校長面談実施 ③ 過去の事例やヒヤリハットを基に校内体制の点検 働き方改革・執務環境改善 ① 産業医による面談、管理職への助言（毎月） ② テレワーク 5 割の職員活用 長期休業期間中の業務の効率化 ③ 複数副担任制により担任業務への組織的な支援 ④ 教室の汚損箇所、ロスナイ修理、体育棟修繕	地域連携活動 年 3 回以上 A 4 回 一般需用費のセンター執行率向上 60%以上 A 58.8% 学校事故苦情ゼロ、サービス事故ゼロ C 1 件 学校満足度 生徒・保護者 80%以上 C 保護者 80%・生徒 64% 校舎老朽化・危険箇所の速やかな対応 B サービス事故防止研修の実施 年 3 回以上 3 回 A メンタルヘルスケアに関する取組 年 6 回以上 A 毎月
		主な推進所管・担当
		各学年、各分掌、各委員会及び経営企画室